

自由集会 W21

モニタリングサイト 1000 の 10 年の成果から分かったこと Vol.2

～大規模長期生態系モニタリングの継続と取得データの活用を進めるためには～

3 月 23 日 15:30-17:30 RoomC

企画者：中山隆治（環境省自然環境局生物多様性センター）



モニタリングサイト 1000 は、環境省生物多様性センターが平成 15 年度に開始した国内最大級の長期生態系モニタリング事業です。事業開始から 10 年が経過したことから、今年度、生態系毎のとりまとめ報告書を作成・公表しました。各生態系の 10 年の調査成果からは、気候変動による影響や外来種の分布拡大等いくつかの変化傾向を把握できており、今後は愛知目標の進捗状況評価等様々な分野での活用が期待されています。

本集会では、昨年の企画集会では報告しきれなかった生態系での成果を紹介するとともに、10 年間で顕在化してきたモニタリングにおける課題やその解決方法について共有し、今後の長期生態系モニタリングの方向性や考え方について議論します。

モニタリングサイト 1000 の概要

中山隆治（環境省自然環境局生物多様性センター）

高山帯調査を通じて見えてきた季節変動の一端

小出可能（自然環境研究センター）

多様な主体による調査で明らかになった日本のサンゴ礁の現状

木村 匡（自然環境研究センター）

とりまとめを通じて判断した陸水域調査の見直しと再構築

横井謙一（日本国際湿地保全連合）

モニタリングサイト 1000 で得られた結果のオープンデータ化について

高久宏佑（環境省自然環境局生物多様性センター）